

季節のズレ

2023.7.1

今日から暦では7月である。だが、だいぶ前から7月を思わせる気候だったように思う。おおよそ1か月は、ずれているように思う。どこからずれたのか。3月からのような気がする。例年よりも桜の開花が早かった。まだ3月なのに、4月を思わせる陽気だった。4月になると、朝からさわやかな青空が広がり、風薫る5月のようだった。

一番、季節のズレを感じたのは、新緑の時期である。山々の緑が、エネルギーに満ち溢れ、様々な緑に包まれる。例年であれば、これは5月の話である。大型連休後ぐらいのことである。それが、今年は4月だった。我が家の庭もそうだった。仙台の青葉通り、広瀬通り、定禅寺通りの街路樹もそうだった。5月の新緑を4月に見ることができた。

気温も、まだ5月だというのに、30度を超える日があった。天気予報により、「今日は暑くなるな」と覚悟した。だが、意外とそうでもなかった。湿度の問題である。同じ気温でも、湿度により体感温度は、だいぶ変わってくることを知った。やはり、夏の福島盆地の、あのじめじめした暑さは遠慮したい。車のエンジンをかけると、表示は43度を示していた。

約1か月ずつ、季節がずれていくと、どうなるのだろう。今年に限らず、ここ数年、感じていることだが、春と秋が短くなっている。冬が終わり、ようやく春が来たかと思ったら、すぐに夏を思わせる気候である。暑い夏が終わり、涼しくなってきたかと思ったら、コートが必要になる。ダウンジャケットを脱ぐとTシャツでいい。実際、海外、特に欧米の方の中には、このスタイルが見られる。

日本の気候のいいところは、四季があるところだろう。それが崩れつつあるのかもしれない。四季、中でも春と秋の趣がいい。春と秋があるから、夏と冬が際立つ。その春と秋が短くなっているとしたら、寂しい限りである。

よく〇〇の北限と言うが、これも変わってくるだろう。昔のことだが、福島市が柚子の北限だということを聞いたことがあった。調べてみた。岩手県の陸前高田市が「北限のゆず」としてブランド化に取り組み始めていることがわかった。

りんごは、寒冷地の東北地方や北陸地方が栽培に適している。みかんは、暖地の四国、和歌山、静岡が適している。これからは、りんごの南限、みかんの北限も変わってくるだろう。仕方がないことかもしれないが、生産者にとっては、大きな問題である。栽培地域の産業構造にも影響が出る。

日本の四季には魅力がある。春には梅、そして桜が咲き、風薫る5月の新緑、秋の紅葉など、季節の節目節目で味わいがある。そのときそのときにふさわしい光景がある。季節のズレとともに、人も変わっていかねばいけないのだろうか。寂しさを拭い去ることはむずかしい。